

## 令和元年度南陽園事業報告

南陽園の事業運営については、平成 31 年度介護保険事業計画に定めた基本方針及び南陽園事業計画に基づき、利用者の方々が快適にお過ごしいただけるようサービスマナー向上に努め、利用者の尊厳を守り、満足度を高めるサービスの推進に努めた。

### 1 利用者の状況

年間平均利用率は 96.7%で、目標値の 97.0%をわずかに下回る結果となった。元年度の年間延入院者数は 7,149 名、1 日平均 19.53 人（前年度延 7,075 名、1 日平均 19.50 人）、長期入院や死亡退所を除く平均入院期間は 38.5 日（前年度 42.4 日）で、ともにやや減少したが、年間退所者数は 72 名で開設以来最多を更新した。入院の要因である病名の主な内訳は、肺炎等約 32%、消化器系等約 18%、循環器系・尿路感染症等各約 14%であった。年間平均要介護度は予算目標 4.05 に対し、年間平均 4.26（ショートステイを加えると 4.23）であった。

#### (1) 利用者の概況

区 分	30 年度	元年度
定 員	242 名	242 名
ショートステイ定員	12 名（24 名）	12 名（24 名）
年間延利用人員	89,922 名	89,935 名
1 日平均利用人員	246.3 名	245.7 名
利 用 率	97.0%	96.7%
平 均 年 齢	87 歳 10 ヶ月	87 歳 11 ヶ月
最 高 齢 者	104 歳	105 歳
平均在籍年数	4 年 0 ヶ月	3 年 10 ヶ月
最長在籍年数	23 年 8 ヶ月	24 年 8 ヶ月
年間入所者数	62 名	72 名
年間退所者数	65 名	72 名

※ 1 ショートステイ定員の（ ）内は、空床利用の定員を示す。

2 「年間利用人員」「月平均利用人員」「利用率」は、ショートステイを含む。

## (2) 日常生活動作等の状況 (年間平均)

区 分	30 年度		元年度		対前年度 伸 び 率
	人 数 (名)	割 合 (%)	人 数 (名)	割 合 (%)	
食 事 介 助 者	84	39.3	80	37.3	0.95
排 泄 介 助 者	185	86.6	192	89.5	1.03
着 脱 衣 介 助 者	181	84.5	175	81.5	0.96
寝 返 り 介 助 者	130	60.9	128	59.7	0.98
移 動 介 助 者	163	76.0	167	77.1	1.01
整 容 介 助 者	171	79.8	168	78.1	0.98
入浴介助者(特殊浴)	140	65.3	130	60.3	0.93
入浴介助者(一般浴)	80	37.2	88	40.9	1.10

## (3) 要介護度の状況 (年間平均)

区 分	30 年度		元年度		対前年度 伸 び 率
	人 数 (名)	構 成 比 (%)	人 数 (名)	構 成 比 (%)	
要 介 護 5	121	51.8	124	53.0	1.02
要 介 護 4	61	26.2	60	25.6	0.98
要 介 護 3	41	17.8	39	16.7	0.94
要 介 護 2	8	3.4	9	4.0	1.18
要 介 護 1	2	0.8	2	0.8	1.00
平均要介護度	4.25		4.24		0.99

## 2 施設運営基本方針の実施状況(概要外特記事項)

## (1) 地域との協働と社会貢献

元年度も地域のケアマネジャーや地域包括支援センターと連携を図りながら、緊急保護を要する要介護高齢者のショートステイへの早急な受け入れや、困難ケースの入所に向けた支援等を積極的に行った。

近隣の中学校の福祉教育の一環としての職場体験受入れや、福祉授業への講師派遣、認知症サポーター養成講座開講等、地域とともに協働しながら社会貢献を行う事ができた。

また障がい者や若者の就労支援団体からの職業訓練生を受け入れて、訓練を通じて就労を支援した。さらに障がい者就労支援団体を通じて清掃契約職員として2名を採用した。

ボランティアの活動状況は、長年続いている普連土学園・聖心女子学院等の

生徒訪問の他にも、麻雀クラブや折り紙の会等の各クラブ活動、各種セラピー、喫茶、園芸、演奏会、傾聴など多岐に亘り、延べ 2,907 名の方々にご協力をいただきました。

## (2) ご利用者中心のサービスの提供

ご家族の医療ニーズを確認しつつ、浴風会病院及び他医療機関との連携を図り、利用者の重度化に対応した。

感染症予防のためインフルエンザの予防接種を 209 名に実施した。合わせて標準予防策の励行、各階の清掃・消毒を日々実施したほか、新たに感染症のシーズンに合わせて看介護の職員にはアルコールジェル消毒薬を携行させ感染症予防に努めた結果、インフルエンザ・ノロウイルスの発生はなかった。

肺炎球菌ワクチン予防接種については、利用者ご家族のご希望と同意のもと、4 名に実施した。

緊急やむを得ない身体拘束者については 3 月末で 0 名であり、今後も身体拘束ゼロを目標とし廃止に向けて取り組んでいく。

## (3) 専門職の連携を活かした職場づくり

法人研修企画部による内部研修（新規採用及び登用者の新人職員研修・階層別研修・全体研修等）や、三特養合同新人職員研修・フォローアップ研修を年 3 回、サブリーダーを中心に月 1 回開催する施設内研修、及び外部研修への参加を計画的に進めて、職員のスキルアップに努めた。

なお内部研修への参加者は年間 456 名、外部研修への参加者は年間 40 名であった。

アクティブ福祉 in 東京'2019 では、4 階のケアワーカーが『人生の最終段階におけるご利用者への医療と介護の関りから見えてきたこと』を発表し、優秀賞を受賞した。さらに法人職員実践・研究発表会では、機能訓練委員会が『トイレ用リフト導入後の実践と結果～「トイレに座りたい」という思いを叶えるために～』を発表した。

また、東京都社会福祉協議会高齢者福祉施設協議会職員研修委員会に委員 1 名、幹事 3 名をそれぞれ派遣した。

## (4) 安定的経営基盤の確保

法人本部との連携しつつ、外国人介護士の採用も含めた職員雇用の努力を

行った。ケアワーカーについては、近年の厳しい人材確保状況を反映して新卒正規職員も契約職員も採用がなく、派遣職員の採用に頼らざるを得ない状況であったが、外国人技能実習制度を活用して、ミャンマー人2名を10月より受入れ開始した。さらに在留資格介護の制度によりベトナム人介護福祉士の内定を得た。今後も外国人も含めた人材確保に努めたい。

元年度は東京都の補助金を活用して、2階・3階にセンサー内蔵ベッドを合計25台設置した。

### 3 利用者へのサービスについて

サービスの提供に当たっては、利用者・ご家族の意向を伺い、施設サービス計画書を策定し、同意を得た上で介護サービスを提供した。

食事は、管理栄養士を中心に栄養マネジメントを適切に実施する他、食事懇談会や食事委員会、管理栄養士のフロアラウンド等により、利用者の嗜好を献立に反映させ、喜ばれる食事の提供に努めた。更に食事を楽しみを持っていただけるよう、選択食・行事食の充実と環境作りに努め、ポスターやBGM等での雰囲気作りを行った。

嚥下機能が低下した利用者には、訪問歯科医による頸部聴診・嚥下内視鏡による評価に基づく食形態・介助方法による食事提供、多職種による食事場面観察及び多職種会議の開催による経口摂取維持への取り組みを継続した。

入浴は、利用者の身体状況を観察しながら、安全で快適な入浴を週2回実施した。

排泄は、昨年度2階から4階の共同トイレに設置したトイレ用リフトを活用し、利用者・職員双方にとって安全な排泄介助に努めた。また、マニュアルの整備と定期的なフォローアップ研修を実施した。

その他、着脱、移乗、体位変換等の介護も、施設サービス計画に基づいて適正に行った。

健康管理は、ケアワーカーと看護師が連携し日常の健康状態を把握し、状態変化時の早期発見・早期治療に努めた。元年度の入院件数は178件（前年度168件）で、入院件数が更に多い状態が継続している。

機能訓練は、機能訓練指導員による歩行訓練、関節可動域訓練等の他、利用者

が生活意欲を持って日々の生活を過ごせるよう作業活動にも力を入れ、多くの作品を作成し展示をした。また、ケアワーカーと協働し日常生活を通じて機能維持を図る動作訓練を、個別機能訓練計画に基づいて実施した。

サービスマナー向上については、サービスマナーマニュアルの見直しを行った他、マニュアルを活用した職員研修を年2回開催し、サービスマナーの向上に努めると共に、「虐待の芽チェックリスト」を用いて職員一人一人が自己点検を行い、フロアごとの課題を明確にし、サービスマナー等の向上に努めた。

その他、セラピストの協力を得てアートセラピー、音楽リハビリ、園芸療法、アニマルセラピーや、各種クラブ活動に取り組んだ。また、利用者の生活の活性化を図るべく、外出支援に力を入れた。10月3、4日のバスハイクには、利用者21名、ご家族7名が参加され、井の頭動物園での見学や小動物とのふれあいを満喫された。

#### 4 施設の運営・管理について

##### (1) 苦情、虐待対応及び個人情報保護について

元年度のショートステイを含むご家族等からの苦情は7件であり、各ケースとも誠意を持って迅速に対処した。また玄関ホールに苦情報告ファイルを常設して、情報公開を行った。虐待及び個人情報保護案件はなかった。

なお、苦情の内容は（別表2）のとおりである。

##### (2) 家族会の開催及び家族との連携について

平成31年3月31日に開催した全体家族会では、園長より31年度事業計画等の説明を行った。さらに令和元年9月16日に3特養合同で家族会を開催し、10月1日消費税率改定にともなう介護報酬・食費・居住費改定、および就業規則改定にともなう説明および契約更新手続きを行った。

秋のフロア家族懇談会を、各階毎に、11月の各休日に計5回開催した。どのゾーンもご家族と職員の話が弾み、交流を図ることができた。

また、日頃から状態変化時のこまめな電話連絡や、ご家族面会時に状況報告を行い、さらに毎月のフロア新聞の発行や文書の送付等により、ご家族との連携強化に努めた。

##### (3) 業務の見直しと改善について

腰痛予防を主目的に、昨年度共同トイレに設置した天井走行式移乗用リフトは、マニュアル作成やフォローアップ研修を実施、実用に至った。

さらに見守り業務負担軽減を主目的に、東京都の介護ロボット導入支援補助金を活用して、内蔵センター付ベッドを2階・3階に新たに25台導入することができた。

#### (4) 職員の健康管理及び労働災害の防止について

職員定期健康診断を4月に実施し115名、夜勤業務に携わる職員は、2回目を10月に実施し71名が受診した。また、腰痛検診を年2回実施し、5月に37名、11月に32名が受診した。健診結果報告書は各自に渡し、所見のあった職員は再診を行うように促した。

『労働安全衛生法の一部を改正する法律』等に基づくストレスチェックを正職員および契約職員に実施し、115名が受診した。さらにインフルエンザの予防接種を、派遣職員も含めて116名の職員に対し実施した。

また、業務災害5件および通勤災害1件の申し出があり、労働基準監督署に療養給付請求書等を提出した。なお、業務軽減は妊娠および怪我による3件であった。

#### (5) 火災の予防と訓練について

防災対策として毎月の自衛消防訓練並びに法人による救命講習に参加し、防災意識の向上及び安全対策に努めた。

### 5 ショートステイの受け入れについて

ショートステイ年間延利用者数は11,333名、1日平均31.0名で、前年度とほぼ同数であり、利用者数も3年連続で1万人を超えた。

介護者の疾病や不測の事態および虐待等により、緊急に保護を要する要介護高齢者の緊急ショートステイの受け入れを、地域の社会資源としての大きな役割と捉え、近隣居宅介護支援事業所ケアマネジャーや地域包括支援センターと連携し、可能な限り受け入れるよう努めた。

元年度の緊急受入件数は15件、延利用者数は311名であった。また送迎サービスはご要望にできるだけ応じるべく南陽園の公用車も活用し、586件（前年度687件）のご利用があった。

## 6 南陽園事業計画の実施状況について

全体目標、各委員会・会議目標、各職域目標を定め、サービス向上に向けて目標達成に努めた。

### (1) 全体目標の取り組み実施状況

令和元年 10 月 1 日施行の就業規則改正にともなう完全週休二日制導入、および年次有給休暇の計画的な取得施行に向けて、各職域で業務改善を行った。特に介護職では、短時間夜勤や複数の早番・遅番の勤務区分を新たに設ける事で、柔軟な勤務体制を整えた。

東京都の介護ロボット導入支援補助金申請が承認されて、内蔵センター付ベッドを新たに 25 台導入することができた。これによりご利用者の居室内での安全が向上と介護職員の見守り業務の負担軽減を図る事ができた。ただし ICT に関する補助金申請については、法人単位の一括申請でもあり、準備期間が足りず次年度に実施予定となった。

技能実習制度に基づく介護技能実習生の受入れについては、ミャンマー国籍の 2 名を 10 月に迎えて、2 階と 3 階にそれぞれ配属した。園長が実習責任者、サービス部長が実習指導員、地域連携担当が生活指導員の体制で、監理団体および受入れ機関と連携しながら、介護技術および日本語や日本の文化の習得の支援を行っている。さらに在留資格介護の制度に基づき、ベトナム国籍の介護福祉士も内定しており、外国人介護士が働きやすい職場環境作りを行った。

### (2) 各会議・委員会目標の取り組み実施状況

#### 【リーダー会議】

勤務形態を見直しショート夜勤を導入した。職員からも負担軽減にもなると好評で、有休休暇の消化も出来ている。但し、感染症や急変者がでた際は、今の勤務形態では厳しくなるため、今後見直しを行う。

元年度は特にアクティビティの充実を目標として新たな取り組みを行った。普段なかなか外出支援にお連れできないリクライニング車椅子を使用している利用者を対象に、半日程度ではあるが計 4 回バスハイクに家族と共に出かけた。また、今までは昼食時に実施していた、お餅つきを元年度からはおやつ時に行い、ゆったりとした時間の中でたくさんの利用者に餅をついてもらうことができ、利用者からも好評であったため、2 年度も同じように実施予定である。

### 【サブリーダー会議】

新たな新人チェックリストを活用し指導したが、見やすく、内容も具体的に新人職員にもわかりやすくなった。しかし、面談時期が遅くなってしまうことで、その後のフォローもずれ込んでしまうことがあったので、2年度はしっかりと予定を組んで行っていく。

研修報告会においては、体験型の研修にすることで内容の理解ができ、より深められた。特に、感染症の研修や業者による紙オムツの研修は、実践を含めた内容であったので、職員の理解も深まった。

ヒヤリハット・事故報告書の確認・修正・集計を毎月行うと共に、連絡簿で具体的に内容を発信することで、周知・再発防止に努めることができた。

### 【褥瘡予防対策委員会】

看護師を主体に多職種でアセスメントを行い、褥瘡予防計画を作成し、計画に基づき予防に努めるとともに、毎月の委員会で皮膚トラブルのある利用者の情報を共有した。また、体圧測定シートを用いて体圧を数値化し可視化できるようになったことで、ケアの統一ができ褥瘡改善・予防につながった。

スキンケアに関しては、利用者個々の排泄状況に合わせた排泄介助を行い、皮膚に爛れや赤みが見られた際は、排泄介助の回数を増やし、改善に努めた。

### 【身体拘束廃止委員会】

2週間毎のカンファレンスや日常業務で共有した情報をもとに、身体拘束の早期解除に向けた検討を重ねた。日中は見守りや興味のある物や作業、レクリエーションを通して少しずつミトンを外す時間が増えたり、ミトンに代わる代替物品の検討や製作を行い、新たに拘束を解除することができた。また、経鼻経管栄養の利用者に関しては経口摂取の検討を行い、経口移行ができたことによりミトンが外せた。なお取り組みの結果として、3月末の時点での身体拘束者は0名となった。

前年度の研修資料や身体拘束廃止マニュアルを参考にしながら、リーフレットを作成した。作成していく中で改めて対応を工夫することで、「困難だと思事例でも、何かできることがあるかもしれない」と再認識できた。委員が中心となり各フロアで不適切ケア防止に向けた取り組みを行うことで、施設全体で意識が少しずつ高まっていると感じる。



## 【ケアプラン委員会】

作成した新アセスメントシートと施設サービス計画を持ち寄り討議し、アセスメントシートの記入に関する細かな擦り合わせができた。特に長期・短期目標のヒントとなる文言についての擦り合わせができたことにより、施設サービス計画の長期・短期目標が記入しやすくなった。

看取り介護については、ご家族を含め多職種で看取りのカンファレンスを行うことで、どのように看取っていけばよいのかがより明確になり、その施設サービス計画書を持ち寄り討議することで、共通認識を持つことができた。

## 【サービスマナー委員会】

作成したサービスマナーマニュアルの周知に力を入れると共に、マニュアルを活用した研修を年2回開催し、サービスマナーについて意識の向上が図れた。

虐待の芽チェックリストを用いた自己評価を年2回行い、個人及びフロアの課題分析を行い、相互点検に努めサービスマナーの向上に努めた。

## 【口腔ケア委員会】

訪問歯科医師含む多職種で、食事摂取状況や食事環境の確認をし、委員会時の多職種会議にて支援方法を検討・共有できた。

ケアが難しい利用者に対しては、歯科医師等に確認し、ケアのポイントなどのアドバイスを受け、実践した。また、年2回「口腔ケアアセスメントシート」を更新し、ケア内容を確認しながら実践ができたが、更新が遅れることがあった。

## 【食事委員会】

選択食や行事食の際に、音楽をかけたり、ポスターによるお知らせや、テーブルのセッティングなど環境作り、雰囲気作りに力を入れたことで、利用者との会話のきっかけにもなり、楽しいひと時を過ごすことができた。

委託業者とは委員会の中で、配膳用のエレベーター内の番重を増やしたり、治療食のおやつの一覧表を作成したり、より良いサービスを目指すために改善策を話し合い、互いに理解しながらより良い食事の提供に向けての話し合いができた。

## 【機能訓練委員会】

物品管理については、チェック表を活用することで居室担当の意識向上に繋

がり、物品の紛失は昨年度よりかなり少なくなった。また、居室担当から機能訓練指導員へ福祉用具の調整や変更等についての質問が多くなり、利用者の状態にあった福祉用具の選定や環境作りができた。

トイレリフトを安全に使用するためのマニュアルを作成し研修を行った。また、実際に使用していく中で課題も見つかり、使用方法と注意点の再確認のためのフォローアップ研修も行った。安全な移乗介助環境を整備するためには、リフト以外の福祉用具についても再確認が必要であり、2年度の課題として取り組む。

### 【アクティビティ委員会】

地域連携担当のサポートもあり、スムーズにボランティアを受け入れることができ、ボランティアの方々と良好な関係が築けた。

クラブ活動等のフロア間交流は、各フロアと連携を取り定期的を実施するも、後半はなかなか活動に参加できなかった。2年度は他フロアとの交流より自フロアでの行事・レクリエーションを見直し充実を図っていく。

ホームページは月2回更新したが、遅れてしまい1回になってしまうこともあった。法人のホームページがリニューアルされることもあり、今後は遅滞なく更新していく。

### 【実習担当者会議】

マニュアルを活用した実習指導は概ね実施できていたが、フロアにより差異があった。また、実習期間や実習課題の周知ができていないこともあったため、来年度の課題とする。

実習生の記録時間の前に振り返り時間として15分時間を設け、当日の担当職員と1日の振り返り（フロアでの振り返りが困難な時は地域連携担当が行った）を行ったことで、実習生との関りの時間が増え、進捗状況の確認がスムーズにできた。

## (3) 各職域目標の取り組み実施状況

### 【事務室】

目標であった接客や電話対応の質の向上およびコスト削減については、元年度着実に取り組む事ができた。今後も継続して取り組んでいく。

また年度末からの新型コロナウイルス感染予防に要する衛生用品・個人防護

具の確保については、早い段階から在庫および消費状況を予測し、不足が生じないよう対応した。

### 【栄養室】

昼食のラウンドでご利用者の状態把握に努め、栄養ケアマネジメントに基づき多職種協働でリスクの高い方についてはなるべく適正な状態に近づけるよう食事提供を行った。

委託業者と連携し、毎回趣向を変えた選択食や誕生会では、ご利用者が好まれる寿司の回数を増やし喜んでいただいた。また、無理なく食事がとれるよう提供量の見直しも行った。

### 【医務室】

毎日のラウンドや食事介助、サービス担当者会議には積極的に参加し、ご利用者の状態把握を行い安全安心に努めた。看取りご利用者には、訪室の機会を増やし日々の状態変化やご家族への不安軽減に努めた。

手洗い・手指消毒の徹底を図ると共に、感染症が疑われる時は、直ちに介護・看護職が連携してマニュアルに沿って対応した。その結果、元年度はご利用者が感染症に罹患することはなかった。

### 【機能訓練室】

他職種との情報共有を継続し、褥瘡予防と発生者の早期改善に取り組み、年度内の新規発生者・再発者は2年連続で減少が見られた。管理の徹底により除圧クッションの紛失はなく、年間を通じて継続した除圧対応が可能になった。今後も適切な管理と運用を徹底し、他職種と協働した予防・改善の取り組みに努めていく。

これまでの車椅子やベッドマット、クッション等の物品選定に加え、ご利用者個々の心身状態や環境に応じたハンドメイドの物品製作を継続して行った。機能だけでなく外観にも配慮することで「私にも作って欲しい」などご利用者やご家族から直接希望されることも徐々に増えてきた。さらに製作にはボランティアだけでなくご利用者・ご家族にもご協力をいただいております生産数が増えるだけでなく「誰かに喜んでもらえるような役割をもてる」という取り組みにもつながってきた。今後も協働を大切に、関わる多くの人のより良い生活につながっていきけるよう取り組みを継続していく。

専従職員の体調不良により家屋調査等の対応は困難となったが、短期入所ご利用者に対するニーズに応じた個別対応は可能な範囲で継続している。生活状況をご本人やご家族、相談員から情報収集し退所後も変わらず安全な在宅生活を過ごしていただけるよう、ご利用時に必要な環境調整や運動を随時検討し、対応していく。

### 【地域連携】

ボランティアとの関わりを多く持つことで、フロアのニーズに合わせた活動をサポートすることが出来た。地域交流の一環として近隣の保育園児と、ご利用者との交流機会を、多職種と連携しながら月に1度開催することができた。

フロア職員と連携しながら実習生との関わりを密に行った結果、実習生1名が入職に繋がった。また、留学生の実習生が増えているため、養成校との連携、フロアの実習担当との連携を更に強めていく必要がある。

### 【相談員】

日頃よりご利用者ご家族や後見人等とのコミュニケーションを図り、相談しやすい関係形成の構築に努めた。ご利用者が最後まで安心して施設でお過ごしいただけることを目標とし、元年度は8名のご利用者を施設でお看取りした。

サービス担当者会議への参加をはじめとして、杉並区や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所ケアマネジャー等と連携を図り、積極的な緊急ショートステイの受入等を推進した。その結果、年間で15件、延べ311名の緊急ショートステイを受け入れるとともに、新たな居宅ケアマネジャーとの関係性構築にも繋がった。結果、ショートステイについては、年間新規契約件数124件、年間延べ利用者11,333名の受け入れを行なった。

元年度も継続して生活相談員個々の資質向上を目標に挙げ、法人内悉皆研修をはじめ、サービスマナー研修、ソーシャルワーク研修等、各種研修や勉強会への参加を積極的に行なった。併せて介護認定審査会への参加や東京都高齢者福祉施設協議会相談員研修委員のブロック幹事を務める等、他施設との情報交換や資質向上に努めた。

利用率確保に向けては、速やかな入所調整の為、元年度より入所検討会を増回し、毎月開催とした。しかしながら、ご利用者の退所件数も72件と多く、年間利用率は96.7%と目標には届かなかった。欠員数が1日平均8.1名と入所調

整の遅れも一因と考えられ、2年度以降の改善につなげていきたい。

## 【2 階】

各ゾーンに環境整備係を設け、季節毎の飾りつけやフロアの不要な物を片付けたり、各居室担当も居室の整理や、飾りつけを意識していた。ご利用者からも、「あの飾り良いわね」「季節を感じられる」等の好評な意見が多く聞かれていた。

サービスマナー委員会を中心とし、虐待の芽チェックリストの結果から、フロアでの取り組みを発信し、意識付けを行った。意識して取り組めたという意見が多く聞かれたが、目に見えてお互いが注意し合える場面を見る機会は少なかった。

## 【3 階】

入浴日でないゾーンは午前と午後に、その方の ADL にあったレクリエーションを実施した。散歩については、多くの方が行けるようにチェック表で確認しながら実施した。入浴日以外と日曜日に実施し、少しの時間でもご利用者と一緒に楽しむ時間が作れた。

5S については、出来ている人、出来ていない人の差が出た。人任せにしたり、気が付かない職員もいたので、目標達成までには至っていない。

昨年に比べ、共感力が身についた。その結果、考察力が身につきご利用者目線でのケアに繋がった。ご家族に対しても報告・連絡が出来ていた。

## 【4 階】

フロアの環境整備に努めたが、一旦片付いても長続きせず、何時の間にか乱れている状況が多々あったので、フロア係を定着させて定期的に勤務内で整理ができるよう努めた。また車椅子の汚れやブレーキの効きの悪さが目立ったので、機能訓練委員会中心に整備に取り組んだ。

施設サービス計画では、利用者のストレングスを引き出す事を主体にした。『できる能力』について、アセスメントシートに落とし込みできたが、着眼点が身体面のみで執着してしまい、「その人らしさが発揮できる」ような視点は不十分であったので、今後はご本人の生活歴、趣味を掘り下げながら個別性がでる施設サービス計画立案をめざしたい。

## 【5 階】

元年度の前半は、10月改定の勤務形態に合わせた業務改善の検討に時間を費

やしたため、当初計画した取り組みを十分進めることができなかったが、後半はグループ単位でのおやつ作りや、何時でも好きな本を読める環境作り等を行う事ができた。また「PEAP」の4ステップに則った環境づくりまで至らなかったが、個別の環境づくりに取り組むことができた。2年度は、他施設事例を見学し更なる環境作りに着手したい。

春や秋の過ごしやすい季節で天気の良い日を見計らって園庭散歩を積極的に行った。また夏や冬には、塗り絵やカラオケ、その他ご利用者が希望する活動ができるように努めた。今後はグループごとのニーズに合わせた屋内活動が提供できるよう、更に支援していきたい。

## 7 諸会議の実施状況について

サービス経営会議	46回	身体拘束廃止委員会	12回
ケアリーダー会議	12回	褥瘡予防対策委員会	12回
ケアサブリーダー会議	12回	ケアプラン委員会	12回
口腔ケア委員会	12回	サービスマナー委員会	12回
事故防止対策委員会	12回	アクティビティ委員会	12回
安全衛生委員会	11回	実習担当者会議	9回
感染防止対策委員会	8回	食事委員会	12回
喀痰吸引等安全委員会	12回	食事懇談会	12回
防災管理委員会	12回	機能訓練委員会	12回

## 8 主要行事等の実施状況について

令和元年度に実施したクラブ活動及び主要行事等は次のとおりである。

### (1) クラブ活動実施及び参加状況

音楽リハビリ(水曜日・2F～4F、5F)	92回	(延 4,492名)
コーヒー喫茶(日・月・火・金)	209回	(延 1707名)
書道(火・金曜日)	27回	(延 219名)
絵画(日・月曜日)	10回	(延 62名)
手話ダンス(日曜日等)	12回	(延 528名)

フラワーアレンジメント (火・土曜日)	21回	(延 226名)
パソコン教室 (木曜日)	36回	(延 176名)
アートセラピー (不定期)	6回	(延 45名)
アニマルセラピー (月1回)	5回	(延 134名)
新アニマルセラピー (隔月)	1回	(延 12名)
園芸療法 (月1回)	12回	(延 246名)
松風園大正琴クラブ (偶数月)	6回	(延 246名)
ピアノ演奏 (随時)	18回	(延 528名)
アコーディオン演奏 (木曜日)	22回	(延 594名)
ギター演奏 (金曜日・随時)	65回	(延 1,764名)
ビデオ上映会 (月1回)	9回	(延 96名)
折り紙の会 (月1回月曜日)	9回	(延 71名)
将棋の会 (日・木・土曜日)	61回	(延 61名)
俳句会 (月2回)	14回	(延 62名)
麻雀クラブ (月1回)	11回	(延 26名)

**計 延 11,270名**

(2) 主要行事実施状況 (別表3) のとおり実施した。

## 9 寄付金等の状況について

令和元年度における寄付金は、ご家族およびご遺族の方より現金にて2件、80,000円をいただくとともに、元年度も中村屋様より水羊羹等をいただいた。

また南陽園夏祭りの際に開店するバザーに、元年度もご家族や地域の多くの方々から物品をご寄付いただいた。売上金は『平成30年9月北海道胆振東部地震』被災地支援への義援金とした。